1．学校マネジメントの深化
【観点Ⅱ】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

取組実践校：佐伯市立明治小学校（児童数；173名）
「学校の教育目標の達成に向けた，短期の検証・改善による授業改善の工夫」

○年間を通じたPDCAサイクルを土台に小さいサイクルと個人・相互チェックの仕組みを構築
○個々が取り組む授業改善の内容を具体化・焦点化

PLAN

①R1・4月当初
・**学校の教育目標と目指す授業像を共有**
「新大分スタンダード」（めあて・課題・ひとり学び・交流・まとめ・振り返り）徹底を確認

DO

DO
◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の結果を集計・交流

②1学期末の検証・改善
CHECK
□全員で目指す力と授業のつながりを再確認
□児童の変容・現状と取組の効果・課題，解決方途を協議
※児童の変容や取組状況を見える化し，学校内外で共有

ACTION
■「学びの主体性」を高めるために，取組を授業の「課題の在り方」に焦点化

DO
◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の項目を更新
◇授業で使った「課題」を職員室内に掲示し，共有・交流

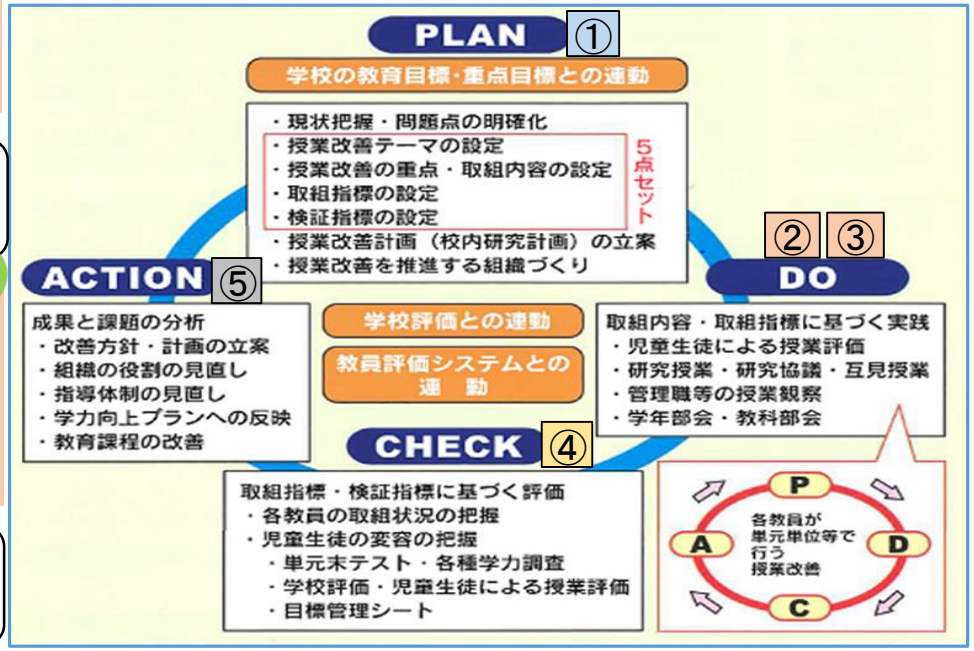
③2学期末の検証・改善
CHECK
□授業改善の進展と児童の変容・現状を重ねて分析
□次の課題や解決に向けた取組の焦点について協議
※児童の変容や取組状況を見える化し，学校内外で共有

ACTION
■「考え，伝え合う」姿を高めるために，取組を「板書の構造化」に焦点化

DO
◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の項目を再度更新
◇研修等で板書写真を交流

CHECK

④3学期の検証・改善
・3学期取組と合わせ，年間取組の効果と課題を児童の変容・現状を基に分析

ACTION

⑤次年度に目指す姿・解決する課題，授業改善の重点等を協議
R2の目指す姿は①を継承し，「思考・判断・表現（書くこと）」の力を高める方向へ
・国語科と生活科・総合的な学習の時間の関連を注視
・単元配列表の活用，「書いて表現すること」を重視
・次年度向けプランに反映